

## I 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200132		
法人名	株式会社 葵		
事業所名	あおい介護センターGH		
所在地	和歌山県田辺市下屋敷町1-78		
自己評価作成日	平成25年9月10日	評価結果市町村受理日	平成25年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokansaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=3092200132-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokansaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=3092200132-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成25年10月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は市街地に立地しています。近辺には、市民会館やスーパー、消防署や病院などの医療機関も多くあり社会資源に恵まれています。駅前商店街のあおい通りに位置して徒歩2~3分程度のところには古い歴史のある闘鶏神社も近くにあり、お祭りや花見、その他のイベント行事に多数参加しています。また、地域資源を生かした外出も毎月計画し、地域の方々と交流を図っています。入所されている利用者さんにとって地域社会での生活を実感できる事業所になります。事業所での取り組み・活動などは、ケア報告書やGH(グループホーム)新聞を発行し、家族様・外部の方への報告や情報発信を行なっています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅に近い商店街に面していて、近くに地域住民と交流できる場が多く、地域の祭りやイベントには入居者も参加している。また、周辺地域で、海を眺めながらの足湯や外食などにも出かけている。入居者の状況に応じて、個々のかかりつけ医への受診支援を行い、協力医療機関による往診や看護師の訪問も受けることができ、医療面の安心に繋がっている。1、2階にはADEが設置されており、全職員が消防署の講習を受け、緊急の事態に備えている。毎月、ケア報告書に個々の受診状況や日頃の様子を添えて、グループホーム便りと一緒に家族に郵送している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) \* 項目No.1~55で目標の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一笑一緒に活きましょう」を事業所理念として、職員がいつも目に付き実践できるよう、ホールへ飾っている。また、理念に基づいて支援できるよう、日々職員間で確認している。	「理念は実践する事が大事である」との意識を念頭に置き、職員は入居者と一緒になって洗濯、掃除等行い、自然な形で理念の実践が出来ており、入居者のADLの向上にも繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺は駅前商店街に立地しており、買い物や外食など地域との交流を図っている。また、地域との繋がりを大切にするため、月二回の外出を計画し支援している。	商店街の中にあり、買い物や外食などで地域と繋がる機会が多い。商店街のクジ引きも施設の前で開催されている。また、地域のボランティアの協力も得られており、法人の年間行事には毎年参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は商店街に立地しており、人通りの多い場所になります。その為、事業所への人の出入が多く、相談者に対しては内容に応じてパンフレットの配布や助言、相談に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所でのサービスや取り組み(レクリエーション)について話し合いの場を作り、反省点の洗い出し、次回への取り組みに生かしている。地域での活動にもレクリエーションとして参加している。	小規模多機能型居宅介護と合同で開催している。外部からの参加者はあまりみられず、内部の職員間での話し合いが主となっている。	事業所の実情を知らせるチャンスでもあるので、多方面からの参加が得られるような、働きかけの工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村と協力関係を築けるよう、担当者と連携を図り、事業所の現状を伝えるようにしている。また、介護認定も事業所内で行っており、ケアサービスの取り組みも伝えている。	市のやすらぎ対策課には頻繁に出向き、わからないことは相談している。また、毎月発行のグループホーム便りを届ける等で協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は入社時の研修で、身体拘束について学んでおり正しく理解している。日中は玄関の施錠をしない取り組みも行い、ケア者の付き添い、見守りにより拘束しないケアを実践している。	玄関は施錠せずチャイムを取り付けている。個々の行動パターンを把握し、法人内の他サービスの職員とも連携を取りながら見守り支援をしている。また、拘束に当たる言葉使いが無いようにも、気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修を受けており、理解できている。管理者は、そのような事実はないか、日々の確認を行い防止に努めています。		

【事業所名】あおい介護センターGH

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は指定の研修で学んだ事を、スタッフ会議で伝え必要性など話し合っているが、現在、権利擁護の制度を受けている入居者様はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、不安や疑問点について各項目ごとに確認を行い説明し、十分理解して頂ける様務めています。改定等で変更になった場合は、新たに説明を行い、理解を得て契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、家族様とコミュニケーションを図り、日々の様子を伝えたり、意見や要望などないか話し合いを行っている。また、直接言いにくい内容があることを想定し、玄関前にアンケート箱を設置し、それらを運営に反映させている。	GH通信とアンケート用紙を毎月郵送しており、家族は訪問時にアンケート箱に投函することができる。来訪時や電話でも意見要望を聞くようにしており、出された意見は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の介護業務を通じ、職員の意見や提案を聞き、その都度検討しながら運営に取り入れている。また、「一言ノート」を活用し職員間での共有を図っている。	独自に考案された「一言ノート」は全職員が書きこめるシートであり、入居者の様子や職員の気づき等が一目瞭然に把握できるので、管理者や職員間で共有し、スムーズに活用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目的意識を持って働けるよう年に1度リフレッシュ休暇を取り入れ、また毎月の会議を通して職員の公休や意見も聞きながら、向上心がもてる、働きやすい環境に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加・事業所内での勉強会を行っている。外部研修も職員に応じて受けられるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等への参加の際に同業者との交流を図り、意見交換を行っている。		

【事業所名】あおい介護センターGH

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に自宅や入院先に面接させて頂いている。現場の管理者・計画作成者が、本人・家族から要望等を聞き取り面接シートを作成している。また今までの生活の把握に努め信頼関係が築けるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様から、不安や要望をしっかり聞き、支援に対する変化など面会時やケア報告書などで報告し、関係づくりに努めている。また、電話による相談も、時間をかけて対応し安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の要望を聞き、本人様にとって何を優先すべきかを考え対応している。要望があれば、夫婦での入居や、受診介助、外出時の付き添いなどの対応なども行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事等を把握し、共に出来る事を増やしていけるよう支援しています。外出やレクなどは、職員も共に参加し楽しみながら行うように取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、日々の出来事や利用者様の様子を伝え、変わった事や気になる事などは電話連絡にて報告している。また、月末にはケア報告書にて、一ヶ月の支援の経過を送付し報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方が面会に来られ、気楽に会話できるよう配慮している。家族様と外出され、近くの喫茶店や外食、お墓参りをされる方もいる。	友人や知人が気軽に来やすく、一緒に過ごしたり、喫茶店や外食に出かけたりしている。また、囲碁が得意の入居者には近くの囲碁クラブにも行けるよう支援し、やりたいことを継続し生きがいを持てる暮らしを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者と交流し易いよう話題を提供したり、会話を多くもちかけるよう支援している。関係を把握しながら、会話が噛み合わない場合などは、ケア者も会話の中に入り円滑にできるように努めている。		

【事業所名】あおい介護センターGH

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された家族様への訪問や、必要に応じて相談を受けている。また、永眠された利用者様においては、初盆にお参りをさせて頂き家族様の様子を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を決め日常生活の支援の中で、本人の希望や意向の把握に努め、計画作成に反映できるようにしている。把握が困難な利用者様については、本人様の視点に立って意見を出し合っている。	入居者との関わりを大切に、思いや意向の把握に努めており、入居者と職員の談笑する姿が煩雑に見られる。「一言ノート」や「24時間生活シート」「ケア報告書」を活用し、内容を職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人様や家族様から情報収集を行い、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションや日々の様子観察を行い、記録にまとめている。毎朝の申し送りにてスタッフ間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成には、本人や家族の要望や意見も取り入れ作成し、月一回サービス担当者会議で意見を出し合い検討し現状に即したものにるように見直している。	事業所が独自に考案した「15の窓」というアセスメントシートを活用し、担当者会議でモニタリングし、職員も参加しながらケアプランを作成している。また、家族の意見も取り入れ、プランに反映できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、日々の様子や支援の経過を記録し、申し送りを行い情報を共有して、話し合い計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携機関の受診や往診、必要時には訪問看護も行ってもらっています。また、家族様の状況により対応しきれない場合は、本人様に必要な日常用品やオムツ類の購入も支援している。		

【事業所名】あおい介護センターGH

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々の訪問や、展示作品出展のためにみんなでちぎり絵作成にも参加して頂きました。また、月2回の外出にて地域との交流を図り、楽しく暮らしていけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様の希望を大切に、かかりつけ医との関係を継続している。事業所の連携医による定期的な往診や、必要に応じて外部の医療機関への受診も行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前のかかりつけ医か事業所の連携医かは本人や家族の希望に添って支援している。連携医による週に2回の往診とは別に看護師の訪問もある。各医療機関への受診支援も行い、家族と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の申し送り時に、日常の変化や観察したことなどを報告し、随時相談している。また、訪問看護師による点滴時も、本人様の状態やバイタルなど適切に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、医療機関への情報提供を行い、主治医や担当看護師と情報交換や相談し、早期退院できるよう努めている。治療に対する説明も受け、退院時にはケアの指導も受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス導入する段階で、重度化や終末期について可能な対応を説明している。状況に応じ、本人や家族との話し合いも行い、今後に向けてチームで方針を共有しながら、事業所で出来ることを支援として取り組んでいる。	終末期の対応については入居時、指針をもとに説明している。また、事業所でできることと、できないことを説明し、本人や家族の意向を尊重しながら最後まで支援していけるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命の講習を全職員が受けており、急変や事故発生時に備えて職員間で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難順路や場所は、全職員が把握し、方法など消防員の指導を受けている。屋上は田辺市の指定避難所になっており、避難時は外部からの援助がみられる。	事業所としての避難訓練は実施していないが、地域の津波避難訓練には職員が参加している。また、建物の屋上は地域の避難場所の一つとなっている。	まずは訓練の実施が必要であり、夜間も想定し、実際に訓練する中で災害時の対応を身につけて備えておくことが望まれる。

【事業所名】あおい介護センターGH

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への言葉かけには、これまでの生き方を尊重しながら接している。否定しない声かけにて、自尊心を傷つけないよう配慮している。	異食行為のある入居者にもスピーチロックの言葉を使わず、尊厳を傷つけない工夫の配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とコミュニケーションを図り、本人様の思いや希望を受け入れ、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、利用者様の視点に立ち、本人の希望を引き出しそえるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットやヘアカラー等、本人の好みに応じて行ってもらっています。着る服は本人に選んでいただき、身だしなみにも気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員が、共に準備や盛り付けを行い、片付けも行っている。その日の献立をボードに記入し、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	朝食は職員が、その他は外部業者が2階の厨房で調理している。職員は入居者の状態に合わせた声かけや、器の位置を随時換等、細やかな配慮で食事を見守っている。おやつ作りは入居者も買物から参加している。	職員と入居者が一緒に食事すると、コミュニケーションをとりながら共に食べる楽しみを共有できる。また、味付け等を把握することもできるので検討が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェックを行い記入し、食事量や水分量を把握している。摂取量が少ない方は医師への相談を行っている。お茶など水分を好まない方へは、スポーツドリンクや甘めの飲み物を提供し、水分量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、し忘れがないようチェック表に記入し確認を行っている。自立した方には声かけし見守りを行い、介助が必要な方には職員で口腔ケアを行っている。義歯については、毎日洗浄を行い清潔保持に努めている。		

【事業所名】あおい介護センターGH

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて、個人の排泄パターンを把握しトイレへの誘導を行い、失禁予防に努めている。尿パッドを使用されている方も、トイレでの排泄介助や支援を行っている。	排泄パターンを把握し、スムーズにトイレ誘導ができていますので、日中、オムツを使用している入居者はいない。夜間もトイレ誘導しており、パッドの交換のみで対応し、自立にむけて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ラジオ体操へ参加していただいている。おやつにヨーグルトや、十分な水分補給に努め予防に取り組んでいるが、便秘時には通じ薬を服用していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々のペースに合わせ、のんびりゆったり入浴できるよう支援している。本人様の希望や体調に合わせて、主に午後入浴している。	午後から夕食までに、週に2、3回入浴できるよう支援している。好みの入浴剤や、富士山の絵を貼るなど、温泉気分を味わえる工夫をしている。入浴を嫌がる入居者にはコミュニケーションに時間をかけて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望で日中の臥床や静養を支援している。起床や就寝は、その方に合わせた時間に対応し、五感刺激への配慮を行い安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新処方や変更時は、受診記録で申し送り、目的や副作用の確認をしている。服薬後のチェックも行い、服薬忘れも防いでいる。症状の変化にも注意し記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いしないよう、個々の役割を計画し、職員と共に楽しく行えるよう支援している。気分転換などは、近くの喫茶店へ外出したり、レクを計画し参加していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に沿って、個別に外出を支援している。お墓参りなどは家族様の協力を得て、本人の希望に対応している。また、月間外出行事を予定し、外食や水族館、花見など普段は行けない場所への外出も支援している。	年間、月間の行事を計画し、遠方でも家族の協力を得ながら外出の支援をしている。また、暑い時期を除いては日常的に近所を散歩し、子供たちとのふれあひも楽しんでいる。	



【事業所名】あおい介護センターGH

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と相談の上で、利用者様が希望された時に所持して頂いています。買い物時などは、自身で支払いを行って頂くよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話があれば取次いだり、自身で電話をかけたい時などは支援している。遠方の家族様からは、誕生日のメッセージや手紙など頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は五感刺激への配慮を行っている。また、共用空間には季節に応じた飾り付けを行い、食事も旬の食材を使用している。	リビングは広いスペースで、入居者の動きや様子が把握しやすい。フローアの一角に、昭和初期の雰囲気を漂わせる居場所があり、そこで毎朝ひき立てのコーヒーを楽しむことができ、また、来訪者との談話室にも利用している。	事業所内に置かれている観葉植物や花は全て人工のもので殺風景にも感じられる。感覚の刺激も期待できるので、本物の植物の花の色や香りを楽しむことができる工夫を期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、円テーブルやソファーなどを利用し、気の合う利用者同士で過ごせるよう工夫している。また、談話スペースを設け、家族様の面会時などは気兼ねなく会話できるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様や家族様に、使い馴れた家具や馴染みの物を持ってきて頂けるようお願いしている。希望により畳みを敷いたり、仏壇なども持ち込んでいただいている。	家族の希望もあり、スッキリとかがずけられ、衣類等も収納されている。ベッドや畳等、本人の身体状況や、希望に添ったしつらえになっている。馴染みの物も持ち込まれており、仏壇が置かれた居室もある。	各居室の表札がドアのかなり上方にあり、視野に入りにくくなっている。表札の意味と入居者の状況を考慮した位置を工夫することが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の「できること」「できないこと」を把握し、状況に応じ声かけや見守りを行い、自立した生活を維持できるよう支援している。		